

経営比較分析表

岡山県 赤磐市

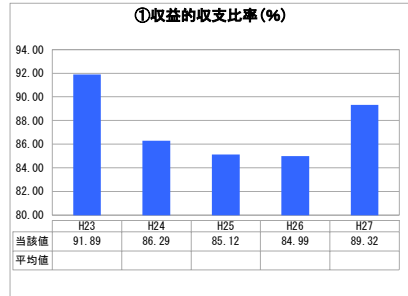
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	60.91	94.16	2,948

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,781	209.36	213.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
27,158	7.47	3,635.61

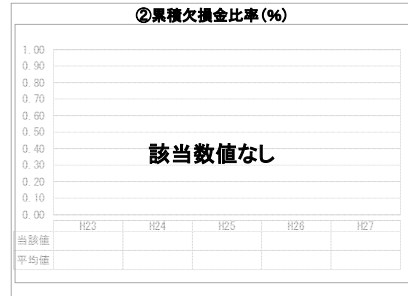
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

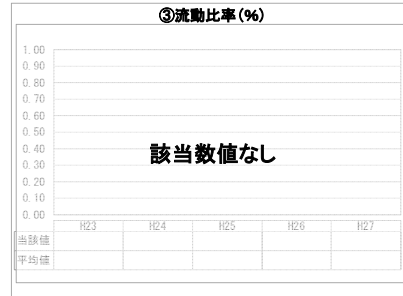
1. 経営の健全性・効率性



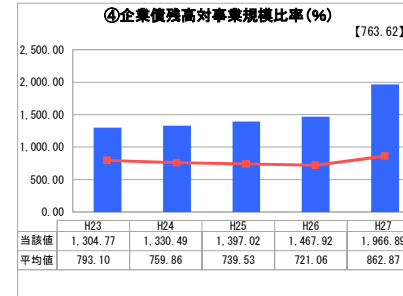
「単年度の収支」



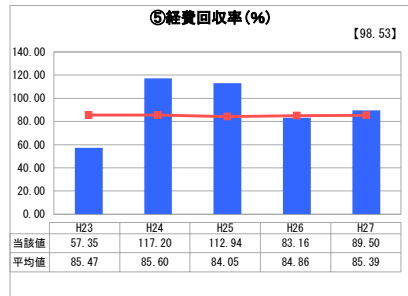
「累積欠損」



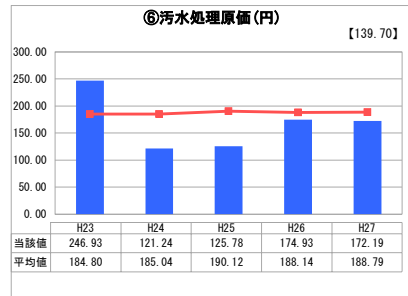
「支払能力」



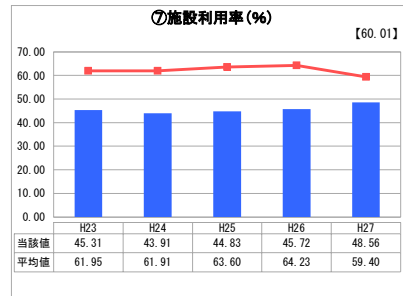
「債務残高」



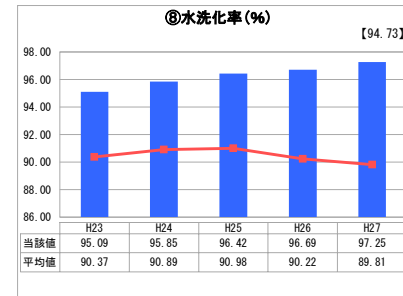
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

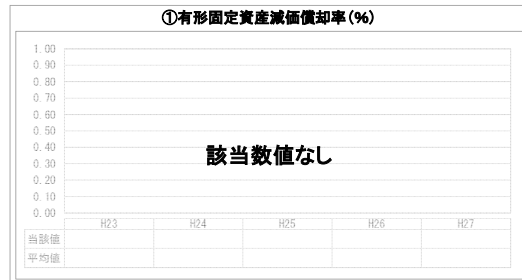


「施設の効率性」

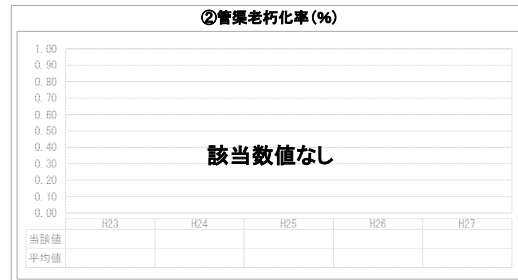


「使用料対象の捕捉」

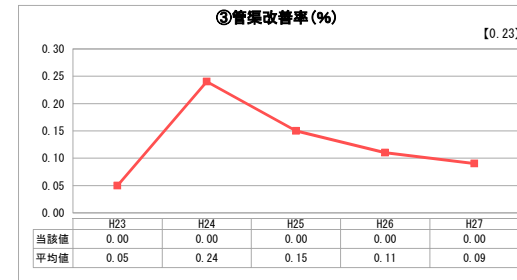
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が89%ほどに改善されたが、下水道使用料金改定によるもので今後、大きな伸びは期待できない。
 企業債残高対事業規模比率は類似団体は、比率が横ばいにあるが、当市は上昇傾向にあり平均値の2倍超と比率が高くなっている。
 これら2つの指標は、使用料が適当な水準に達していないことが要因のひとつと考えられる。
 汚水処理原価は収益的収支の改善により平成27年度は横ばいであるが、依然、上昇傾向にあることには違いありません。そのため、経費回収率も引き続き低下傾向にあると考えられます。
 水洗化率は、平均値を上回っているものの、施設利用率は4割前後で推移しており、平均値の7割程度にとどまっている。

2. 老朽化の状況について

平成18年度に2つの浄化センターを統合した。管渠については、一部について、カメラ調査等を行い管渠更正を行った。今後の管渠更正等の計画は具体的に決まっていないが、敷設から45年経過する管が約12kmあるため、今後、調査更正の必要がある。

全体総括

平成27年度に下水道使用料を8%の増額改定し、収入確保に努めているものの、今後、老朽管の改善も必要となり、下水道未普及地区への管の延長等にかかる経費もある。使用料改定後も適当な水準には達していないため、数年後に経営戦略の見直しを行い、適正な使用料水準や経費の見直し等財源の確保について検討することが重要であると考えます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

岡山県 赤磐市

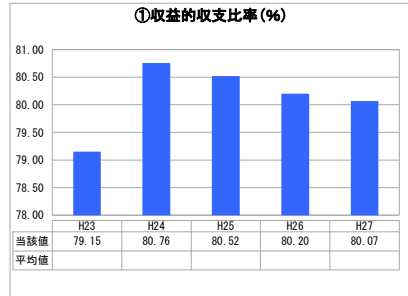
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	13.57	93.11	2,948

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,781	209.36	213.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,051	3.07	1,971.01

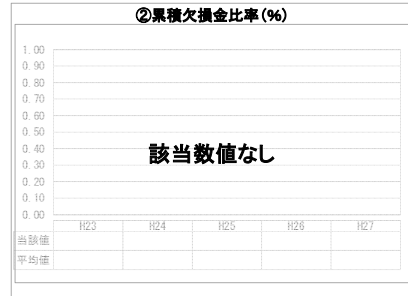
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



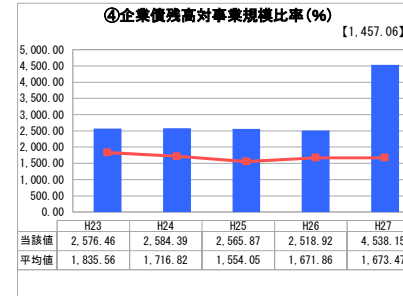
「単年度の収支」



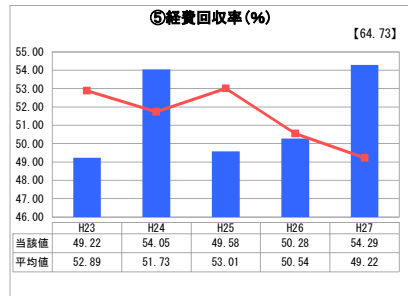
「累積欠損」



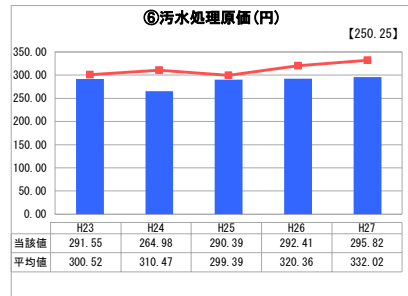
「支払能力」



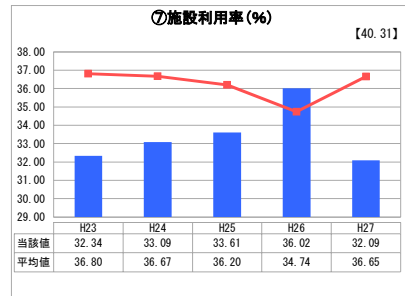
「債務残高」



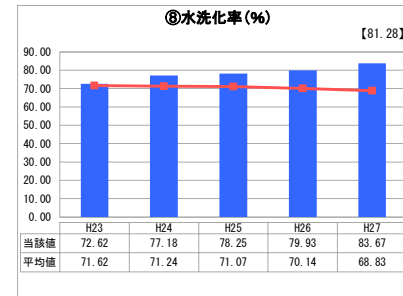
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

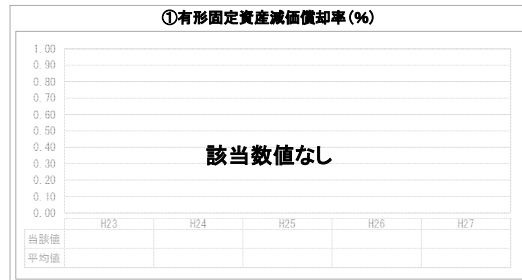


「施設の効率性」

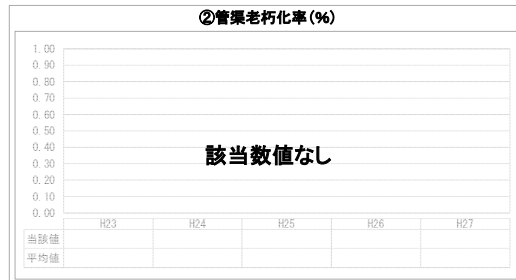


「使用料対象の捕捉」

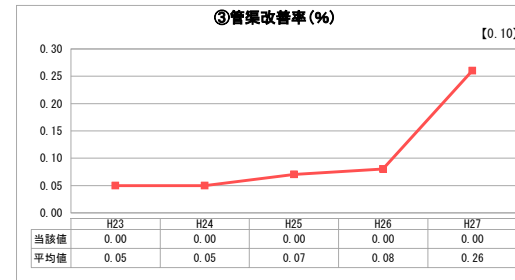
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が80%前後で低下傾向にある。企業債残高対事業規模比率は類似団体は、低下傾向にあるが、当市は横ばい傾向から平成27年度に上昇に転じた。この要因は浸水対策に取組んだためである。これら2つの指標は、使用料が適当な水準に達していないことが要因のひとつと考えられる。汚水処理原価は類似団体と同様の傾向にあり、経費回収率は平均値を上回っている。水洗化率は、平均値を上回っており、また、施設利用率は類似団体とほぼ同じ割合と低い状況となっている。

2. 老朽化の状況について

供用開始から、14年経過しており、機械等については修繕対応しているが、老朽化の傾向が見られ始めてきている。汚水管が一番古いもので18年経過している管が約7kmある。

全体総括

平成27年度に下水道使用料を8%の増額定し、収入確保には努めているものの、収益的比率が100%に届いていない状況である。使用料改定後も適当な水準には達していないため、数年後に経営の見直しを行い、適正な使用料水準や経費の見直し等財源確保について検討することが重要であると考えられる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

岡山県 赤磐市

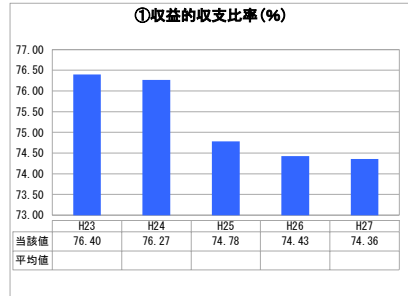
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	2.00	100.29	2,948

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,781	209.36	213.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
890	0.30	2,966.67

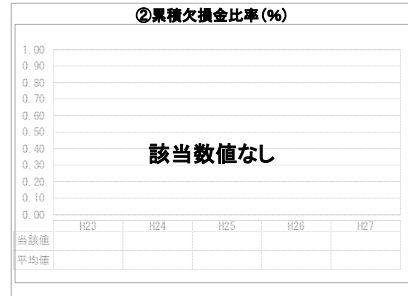
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

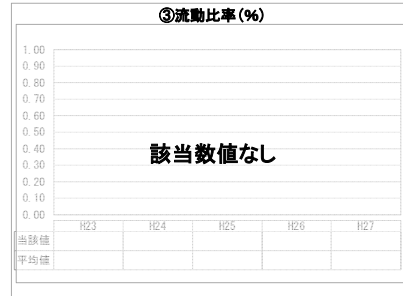
1. 経営の健全性・効率性



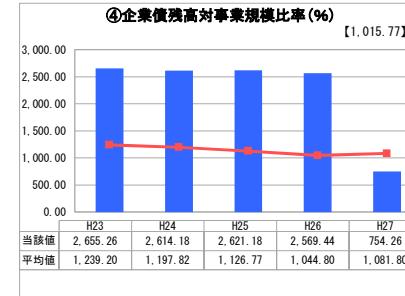
「単年度の収支」



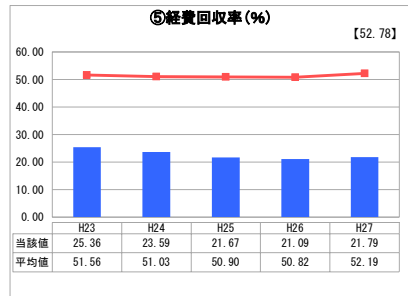
「累積欠損」



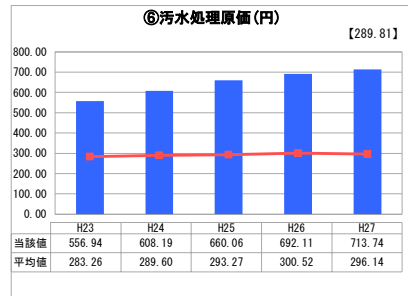
「支払能力」



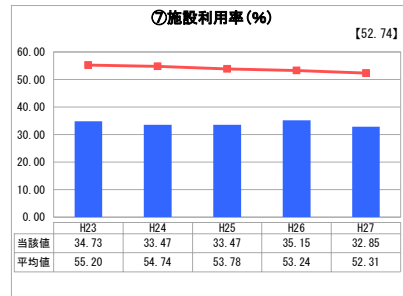
「債務残高」



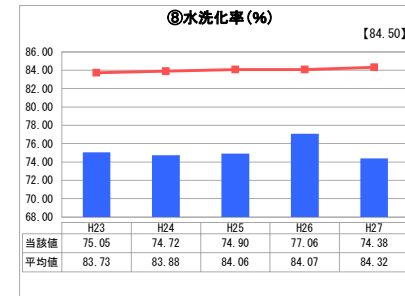
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

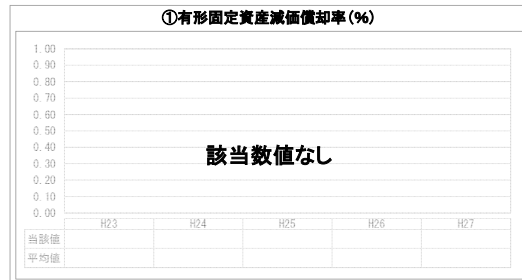


「施設の効率性」

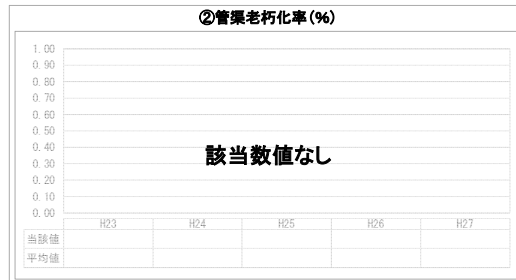


「使用料対象の捕捉」

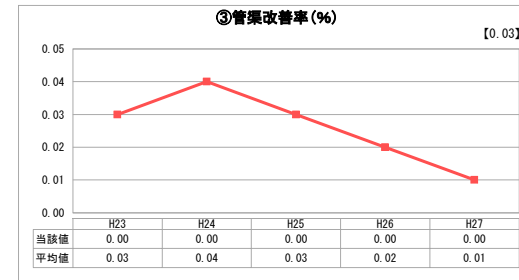
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が75%前後で低下傾向にある。これには、使用料水準が国の示す基準に達していないことも要因のひとつであると考えられる。企業債残高対事業規模比率は類似団体は、比率が横ばいにあるが、当市は起債の完済が進み、低下傾向にある。汚水処理原価は類似団体と2倍の差があり、経費回収率は平均値の半分を下回っている。施設利用率も水洗化比率も、平均値の6割程度の低い状態になっている。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年近くたつ施設もあるので、機械等については修繕対応している。管渠についても2年経過しているものが約1.2kmある。

全体総括

平成27年度に下水道使用料を改定し収入確保に努めているものの、収益的収支比率が100%に届いていない状況である。使用料改定後も適当な水準に達していないため、数年ごとに経営の見直し等財源の確保について検討することが重要であると考えられる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。